

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0475500898
法人名	宮城福祉総合研究所
事業所名	グループホーム フォークソング
所在地 (電話番号)	仙台市泉区野村字野村161-1 (電話) 022-772-6566
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年 7月23日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 8.5人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(A)23000円(B)26000円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有( 円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1200 円		

### (4) 利用者の概要( 7月10日現在)

利用者人数	16 名	男性 2 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.47 歳	最低 72 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田病院・エバグリーン・イズミ(介護老人保健施設)おのぞらクリニック
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは開設されて4年が経つ。交通量の多い道路から一步それると可愛いグリーンの家がある。天窗からの光が明るい居間から見える緑深い木立は、居ながらにして四季折々の自然が楽しめる。「いらっしやい、ごゆっくり」と今回も丁寧に丁寧にお茶を運んでくれた方、廊下でしんみりと立ち話をする光景、居室を見せて頂く時に「散らかっていますけど…どうぞ」の入居者の方の言葉等から、管理者・職員が日頃から大切にしている「利用者が主人公」の理念が実践に活かされ、「入居者主体」の支援を見ることができた。ゆっくりした普段着の生活の匂いが感じられるホームである。自己評価本来の意義は、管理者・職員全員が参加し日頃のケアを率直に振り返り、評価していく過程から出された課題を洗い出し、全員で改善を図っていくことである。ホームのケアの質の向上に向け自己評価の意味するところを理解し、経験豊かな管理者のもと改善に向け全員で取り組まれることを願っていたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目は3点であったが①災害対策については、改善されている。しかし②同業者との交流③重度化に向けた方針の共有の2点について前進は見られているが尚、改善実施に向け検討を続けていただきたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日常的な関わりの中から、ケアの対応・気付きなど職員から広く意見を集め管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第1回の開催は平成18年11月。今年の7月8日で6回目を数えた。9月から定例開催日を開催月の第三木曜日とした。会議に出席した職員は“地域の生の声を聞くことで、地域におけるグループホームのあり方を知ることができた。入居者がこの地域で暮らしているんだと実感できる支援につなげていける会議でもあるんだと思える良い機会になりました。”と話していた。会議が地域を意識したケアへの取り組みの大きなツールになっているのがうかがえた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪問された時には、声をかけ会話の中から要望・意見等を聞いている(家族のアンケートにも毎月こまめな報告が有り、面会の時にもよく耳を傾け話を聞いてくれるとある)。また、意見箱を玄関に設置し、安心して気軽に表し易いよう工夫している。家族の代表も運営推進会議のメンバーとして参加している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、盆踊りに参加したりボランティア(唱歌)の定期的な訪問がある。近くの農家の方が野菜の苗を持ち寄り中庭の菜園で入居者に野菜作りのアドバイスをしていただくこともある。避難訓練に町内の婦人部の参加を得るなど運営推進会議のメンバーからのネットワークを通して徐々にではあるが、人間関係も広まり地域との連携・協力が深まりつつある。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と共に生活していく思いがこめられた分かりやすい理念になっている。これからも地域密着型サービス事業所としてのホームの理念はどうあるべきか、1年に一度は話し合いの機会を持ち、検討していただきたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、目にふれるようタイムカードのある場所に掲示し、誰もが確認し共有できるよう工夫されているが、更に理念の意味をよく熟知して職員全員でケアに活かしていただきたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	犬の散歩の途中に立ち寄る人のおしゃべり、近所の赤ちゃんの訪問は入居者の憩いの時間になっている。招待を受けた近くの施設(愛泉荘・幸泉学園)の夏祭りも近づいている。ホーム便りが休刊中なので早い時期に再刊し、交流のルーツとして活用されれば地域との更なる交流の広がりが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃のケアを改めて振り返る機会と捉え、外部評価のアドバイスを活かし、より良いケアの向上につながるよう取り組んだが、評価の意味するところを理解するためにも、できるだけ多くの職員が参加されるようお願いしたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを決めるのが難しい時もあるが、6回目を数え定着してきた。メンバーの民生委員の方からの地域の情報提供(高齢者の状況など)は、地域と共に生活するホームにとっては何よりの支えになっている。更なる質の向上を目指し、議事録の外部への公表をしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員の受け入れ態勢が整えば、職場体験の高校生を迎えたいと管理者は語っている。ホームの実情を知っていただくためにも、継続的な働きかけの工夫をお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は、ホームでの様子・健康状態・金銭状況・職員の異動など月1回担当の職員が書面で報告しているので安心ですとアンケートにもある。変化が起きた時には、その都度電話で報告している。金銭の管理は月800円で事業所が責任を持って管理している。お金を持たないと不安な方には、家族と相談して、3,000円お持ちいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声を掛け、気楽に話をしていただけるよう職員は心掛けている。第三者委員は委嘱され、重要事項説明書に記入されているが、連絡先が未記入なので記載をしていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症のケアには馴染みの人間関係が大切であることを管理者や職員は理解している。異動や離職があった時は、管理者や他の職員からのアドバイスやサポートを受けながら早く馴染みの関係ができるよう努力している。また、2ユニットならではの利点を活かし、顔なじみの互いのユニットの職員同士が連携を図り、ダメージを最小限に抑える努力もされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報は揭示し、こまめに提供している。資格取得希望者には、勤務の調整の配慮をするなど支援している。資格取得後は資格手当がありスキルアップへの励みにつなげている。夜勤時の不安への対応に高森消防署での「心肺蘇生法」の研修を予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所に於いて研修の機会を設けている。地域の同業者と交流を図り、学習会や相互訪問などに参加することは職員の悩みの解消やホームの質の確保にもつながるので、同業者のネットワークへの参加に向けて積極的な検討をお願いしたい。	○	サービスの質の向上には同業者との連携が不可欠である。管理者・職員が交流の機会を持つことにより、ホームのサービスの質の向上にもつながることを運営者は理解し加入への積極的な支援をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	帰宅願望が強く、サービス利用になかなか納得されない方もいたが、困難な場合は家族や地域包括支援センターと連携をとりながら何とか早く馴染んでいただくよう支援している。現在8名の待機者がいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のヒアリングによれば、入居者から料理や入居者流の天気予報などいろいろ教えていただき、一緒に過ごす時間を大切にする関わりがなされていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にも掲げられている「利用者本意」の個別ケアを実施している。コミュニケーションのとりにくい方は、いつもと違う表情や仕草の小さな変化を見つけ把握するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居されて間もない方は安全面への配慮を、またホームでの生活に馴染まれた方には本人の願いや希望を、家族の思い等も取り入れて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が見られた場合には、その都度見直しをしているが、定期的な見直しは6ヶ月に1回になっている。適切なケアによって周辺症状の改善もあるので、常に現状にあった介護計画の見直しが求められる。	○	なかなか自分の思い・痛み・不安など伝えたり表現するのが困難な認知症の方には、何ら大きな変化が見られなくても、小さな変化の兆しに対応するためにも最低3ヶ月に1回の見直しをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	創設以来4年を経過し馴染みの関係はできている。病院への面会や外泊支援など行っている。家族アンケートから、通院同行が今はできるができなくなった時を考えると心配だとあり、その件は管理者も承知している。早い段階での対応が望まれる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の望むかかりつけ医になっている。通院は家族ならではの関わりを大切にしたいと、基本的には家族同行で対応している。家族から将来できなくなってきた場合を心配する声も聞かれ、今からでき得る範囲の支援を話し合っておくことが望まれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	他の入居者への影響・職員が迷うことのない統一した看取りの研修の重要性・看取り介護への体制が整っていない等、ホームでの看取りは考えていない。説明は入所時に口頭にて行っている。現在は対応できなくとも生活の延長線上で将来どのように対応していくか話し合っていたきたい。	○	できる・できないではなく管理者・職員も入居者の環境の変化によるダメージを実際に体験しているので、体制が整備されれば最期を看取りたいと切に思っている。口頭による説明では家族もどのような状態を重度と見るのか気になるところである。早い時期での「重度化した場合の対応についての同意書」を作成し、納得して同意を得られるよう対応していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋を見せて頂く時には、同意を得ていた方にも改めて声を掛け許可を得ている。名前の呼び方も失礼にならないよう通り一遍ではなく、臨機応変な対応を心がけている。記録はキャビネットに保管され個人名が見えないよう配慮されている。「個人情報に関する同意書」を作成し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・就寝時間など各人の生活リズムを大切に個別ケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態に合わせて、ソファで職員と二人ゆっくり食事をする方、「この野菜は私が切ったの」と話をしながら食べる方、こぼしの多い方の傍らには、職員がゆったりと座り、さりげないサポートをしている。後片付けも入居者が率先して、段取りよくてきぱきと自分の役割はお任せとばかり力を発揮していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの習慣から寝る前に入る方が多い。職員の体制からも厳しい時間帯であるが、入居者の希望に合わせて楽しんで入浴していただけるよう支援している。一人で入浴される方にはこまめな声がけと見守りで安全に配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人がやらされているという気持ちを持たないよう、無理せず自発的に活動してもらえるような言葉がけや場面作りをして、本人が満足のいく楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物・近所の散歩・ドライブなど戸外に出るようにしている。職員体制もあり外出時のボランティア募集を行っているが、さらに一人ひとりの外出の希望がかなえられるよう各方面へのボランティア募集の呼びかけの継続をお願いしたい。		
hyouka					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関にかぎを掛けていない。訪問時にも自由に庭に出て散歩をしたり、野菜を眺めたり思い思いに過ごしていた。門扉は車の往來の多い道路が近いので施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の改善項目であったが、前向きに取り組み改善されている。町内婦人部の協力のもと、年2回、訓練を実施している(夜間想定あり)。一人ひとりに非常持ち出し袋と水が準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつの際にも水分を十分に摂るよう心掛けている。体重チェックも実施されている。入居者の好みを取り入れたり、献立にバリエーションを持たせる工夫をしている。介護予防で食の役割は重要な位置にある。栄養士や保健師の定期的なアドバイスを受けられるよう地域包括支援センターや行政等にも相談していただきたい。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の願い事を結んだ七夕飾りが居間に彩りを添え、入居者に夏の到来を告げている。トイレの入り口には「こん・こん」とノックの表示がされていた。入居者の動線箇所は整理・整頓され安心して移動できるよう片付けられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた馴染みの身の回りの物や、大切な思い出の品々や写真に囲まれ、ほっとくつろげる自分の部屋があった。		